5 行動する人づくり

1 目標



【目指す都市の姿】

全ての人や事業者等が杜の都の環境を大切にし、行動するまち

【定量目標】

○日常生活における環境配慮行動

日常生活における市民の環境配慮行動（25項目）について、全ての項目における実践割合を現在よりも向上させます

2 令和7年度の進捗状況

市民が環境に関心を持ち、積極的に環境配慮行動を実践する機会の創出を図るため、「せんだい環境学習館たまきさんサロン」における環境教育・学習の推進、「杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）」や「アメニティ・せんだい推進協議会」など多様な主体と連携した講座やイベントの実施、Webサイト・SNSを活用した情報発信などに取り組んでいます。

平成30年度及び令和6年度の「日常生活における市民の環境配慮行動」の実践割合については、以下のとおりです。次回の調査は令和11年度に実施する予定です。

項　目	実践割合※(%) 平成30年度	令和6年度	項　目	実践割合※(%) 平成30年度	令和6年度	項　目	実践割合※(%) 平成30年度	令和6年度
1. 電気や水、ガスなどの節約を心がける	90.1	89.6	10. 生ごみは十分に水切りをする	90.7	89.0	18. ウェブサイト等を利用して、ものを再利用する	16.6	24.9
2. 省エネ製品などを選んで購入する	76.6	81.0	11. 食品ロス削減に努める	90.4	90.2	19. 庭やベランダ等で、木や花、野菜を育てる	60.7	61.1
3. できるだけ自家用車の利用を控える	48.6	47.7	12. 紙類は分別して紙類定期回収等に出す	92.9	92.3	20. 公園や川、海や森などで自然に親しむ	55.2	53.5
4. エコドライブを心がける	58.9	58.1	13. プラスチック製容器包装や缶・びん等は分別して収集に出す	97.4	97.5	21. 地元産や旬の食材を選んで買う	77.2	76.9
5. 宅配便は再配達とならないよう気をつける	79.8	87.2				22. エコラベルがついた商品などを選んで購入する	53.9	53.2
6. 車を買う際、環境にやさしいものを選ぶ	28.2	27.2	14. 小型家電は分別して回収ボックスに出す	67.5	73.5	23. ごみのポイ捨てをしない	92.5	94.1
7. 自宅に太陽光発電設備等を設置する	7.4	9.7	15. マイバッグ等を持参し、レジ袋を断る	91.2	94.9	24. 環境に関する講座やイベントに参加する	10.8	10.5
8. 自宅の断熱性を高くする	36.6	37.6	16. コンビニ等で割りばし等をもらわない	69.2	80.1	25. 地域の清掃や資源回収活動など、環境に関する活動に参加する	47.6	42.8
9. 再エネの比率が高い電力会社から電気を購入する	6.3	8.1	17. リサイクルショップ等を利用して、ものを再利用する	36.1	37.9			

※各項目について「常にしている」または「できるだけしている」と回答する人の割合
※設問6～9について、平成30年度調査では「できるだけしている」という選択肢がない
※設問6～9について、令和6年度調査では「常にしている」を「既にしている」に、「できるだけしている」を「今後したいと思う」に選択肢を変更

定量目標	進捗状況
○日常生活における環境配慮行動 日常生活における市民の環境配慮行動（25項目）について、全ての項目における実践割合を現在よりも向上させます 【基準値：前回調査結果（平成30年度）】	25項目中13項目で向上 （令和6年度）

3 主な施策の実施状況

（1）環境教育・学習の推進

今日の環境問題は、身近なごみの問題から地球温暖化のような世界規模の問題まで幅広い分野にわたりますが、いずれも私たちの生活スタイルや社会の在り方と密接に関わっています。

これらの問題を解決し、大都市としてはまれに見る豊かな生態系を保全しつつ、持続可能な社会を構築するためには、「環境教育・学習」を広く普及・推進することによって、私たち一人ひとりが日常生活での意識と行動を環境への負荷の少ないものに変えていくことが大切です。

このような観点から、本市では環境保全の基本施策に環境教育・学習を位置付け、市民への環境情報の提供や学習・交流の場となる「せんだい環境学習館たまきさんサロン」の運営、学校での環境教育の推進、仙台市環境保全基金（平成2年設置）の益金を活用した「杜の都の市民環境教育・学習推進会議」（愛称：FEEL Sendai）の運営と事業の支援など、関係団体等とも連携しながら様々な事業を展開してきました。

ア　せんだい環境学習館たまきさんサロン

環境教育・学習についての情報の収集・提供や活動支援を行うことを目的とし、平成3年6月に市役所本庁舎1階市政情報センター内に「環境学習コーナー」を開設、平成16年2月に「環境交流サロン」として拡充しました。平成18年5月に環境局内に移転し、運営していましたが、環境学習施設としての機能の充実を図るため、平成28年4月に「せんだい環境学習館たまきさんサロン」（以下「たまきさんサロン」）として青葉山の東北大学大学院環境科学研究科本館1階にオープンしました。

「たまきさんサロン」では環境に関する多様なテーマの「サロン講座」を開催しているほか、環境関連図書や教材の貸し出しを行っています。

また、「せんだい環境学習講座」として、本市の環境に関わる学習講座の情報を集約して学校や地域団体等に紹介し、受講の支援（講師謝礼の負担等）を行っており、令和7年度は61のプログラムから79回の講座を実施し、延べ2,664人が受講しました。

「たまきさんサロン」には無料のセミナースペースもあり、勉強会や会議の開催など、市民の皆さまの環境活動の交流の場としてご利用いただけます。


▲たまきさんサロン


▲サロン講座


▲せんだい環境学習講座
「“ゴミ”本当に『ゴミ』なの…?」

「たまきさんサロン」の令和7年度の利用状況
利用者数：4,454人　　図書等貸出数：1,739冊

せんだい環境学習館たまきさんサロン

◆開館時間
（平　日）10：00 ～ 20：30
（土日祝）10：00 ～ 17：00
（休館日）月曜（月曜が休日の場合、その翌日）、
　　休日の翌日、年末年始

◆場所
仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
東北大学大学院環境科学研究科本館1階

◆お問い合わせ
TEL/022-214-1233　FAX/022-393-5038

イ　杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）

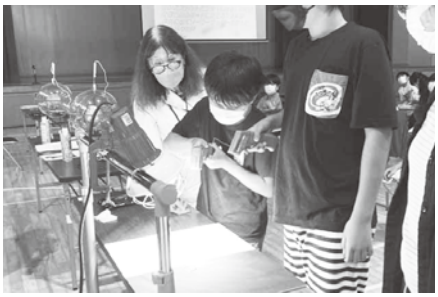
環境に配慮する人を社会全体で育てていくための組織として、平成16年5月に「杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）」を設立しました。

FEEL Sendaiは、市民・NPO・学校・事業者・行政などのあらゆる主体のパートナーシップを構築し、メンバーによる幅広いネットワークを活用しながら、学校教育や生涯学習も含めた環境教育・学習を包括的に推進しています。

(ア) 杜々かんきょうレスキュー隊事業

本市の特色ある地域や市内の自然環境を、体験的な環境教育・学習のフィールドとして位置付け、それらを活用した環境学習プログラムを作成し、幼児、小・中学生や市民、教師に体験してもらう事業で、平成15年度から実施しています。

テーマを設定して新たな環境学習プログラムの企画、作成を環境NPO等に委託し、令和7年度には20のプログラムが実施可能となっています。また市内の小中学校や保育所・幼稚園等において環境学習プログラムの体験実践を行っており、令和7年度は延べ79回実施しました。



▲環境学習プログラム「太陽ってすごい ～地球温暖化について考えよう～」

(イ) 環境絵画・ポスターコンクール

住みたい街について環境の観点から考え、それを表現するプロセスを通じて環境に対する関心を高め、自ら進んで環境を守っていこうという思いを強めることを目的として、小中学生を対象に絵画・ポスターを募集しました。令和7年度は、9点を入賞作品として表彰しました。



▶令和7年度環境絵画・ポスターコンクール最優秀作品 「緑溢れる伊達な未来都市、仙台」

(ウ) 環境フォーラムせんだい

環境のために身近な生活の中でできることを学ぶイベントで、企画から運営までのすべてを市民やNPO等で組織される実行委員会が主体となって行っています。令和7年度は、「仙台防災未来フォーラム2026」内で開催し、約850人が来場しました。



▶環境フォーラムせんだい2026

(エ) せんだい環境ユースカレッジ

18歳～30歳代の若い世代を対象に、環境に関する講義、環境NPO等での環境活動体験を実施し、環境教育・学習に関わる人材を育成することを目的とした事業です。令和7年度は事業の見直しを行い、講座編9つ、体験・実践編6つのプログラムを提供しました。令和7年度末時点で96名がユースカレッジに登録しています。

ウ　学校における環境教育

環境問題は現代社会のライフスタイルと密接に関わっています。持続可能な社会を目指し、日頃から環境を意識した生活や責任ある行動をとれる児童生徒の育成が求められています。

そこで、学校教育では、次の目標を掲げ、環境教育を推進しています。

自然環境や資源の有限性等の中で、持続可能な社会をつくるために、自ら学び行動する児童生徒の育成を目指す。

多くの学校が、「総合的な学習の時間」の授業や特別活動（児童会・生徒会活動）において、環境を題材にした学習や活動に取り組んでおり、特色ある学校づくりとともに、様々な環境教育が実践されています。

また、「杜の都環境プラン」に基づき、児童生徒が環境問題について理解し、主体的に環境保全に取り組む意識や態度を育てることをねらいとして、「杜の都のエコ・スクール活動」に全市立小・中学校で取り組んでいます。

令和7年度の全市立小・中学校の取り組みの様子は、仙台市教育委員会のホームページで紹介しています。

《小・中学校での環境教育の特色ある実践の例》

・米作り、野菜作り
・エコキャップ、プルタブ回収、古紙回収と分別
・学校や地域の森を活用した体験学習
・児童会、生徒会活動による節電・節水の呼び掛け
・梅田川や、七北田川などの自然観察や水質調査
・地域の落ち葉拾いや地域連携による清掃活動
・緑のカーテンづくり
・給食残食ゼロウィークの実施
・水や海の環境問題をテーマとしたSDGsに関する学習
・荒浜での植樹体験
・ペットボトルイルミネーション制作
・地域の公園への花植え活動
・自分たちで育てた大豆によるみそづくり
・ビオトープ作りと環境維持活動
・アサガオのツルでリース作り
・着なくなった服を難民に届ける運動
・下水道の役割や仕組みに関する特別授業
・エコフェスティバルの開催
・巣箱を作り、校地や地域の森へ設置をする活動
・野鳥の観察
・井土メダカ復興プロジェクト
・ベルマーク、使用済みインク集め
・海浜植物の再生、保護活動



▲けやき山の整備（危ない枝、不要な木の伐採（泉松陵小）

Check ▶ 杜の都のエコ・スクール
「杜の都のエコ・スクール活動」で検索

エ　生涯学習における環境教育

（ア）科学館における取り組み

仙台市科学館では、郷土の自然の大切さを知り、環境を保全することの重要性を学ぶことのできる科学館を目指し、生涯学習や学校教育において環境に関する指導や学習支援を行っています。

令和7年度は以下のような事業を実施し、延べ8,536人の市民が参加しました。

◆環境関係事業

・小学校を対象とした「環境学習の学校支援」（授業実践4校、道具等貸し出し2校、参加児童数282名）
・中学校生徒を対象とした「科学館学習」（地学、化学、生物分野で環境を扱っています。受講生徒数8,172名）
・市民を対象とした「自然観察会」（①台原森林公園の昆虫、参加者数19名②茂庭の化石、焼河原の化石、参加者数41名③野鳥観察会、参加者数22名）



▲環境学習の学校支援

（イ）市民センターにおける取り組み

地域の生涯学習の拠点として、市内60カ所に設置されている市民センターは、環境教育を進める上でも大きな役割を担っており、地域住民を対象に、環境問題に関する学習機会を提供する講座やイベントを開催しています。令和7年度は以下のような事業をはじめ、市民センター合計で38事業、200回の環境関係事業を実施し、延べ8,650人の市民が参加しました。

◆環境関係事業の例

・宮城県準絶滅危惧種ミズアオイの生息地田子プロジェクト（田子市民センター）
・学ぼう！SDGs（高砂市民センター）



▲親子で楽しむワクワク講座
押し花アートと草花探索を楽しもう
（若林区中央市民センター）